

細江カトリック教会だより 8月

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

平和への祈り

今年の夏は特別に暑いような気がします。炎天下にがんばってミサにこられる高齢の方々をみると、「大丈夫かしら」と心配になります。くれぐれもご無理のないように。

こういう私も、つい先日、77歳になりました。お盆と終戦の日が近づくと、昔のことをあれこれ思い出します。

終戦の数カ月前、私たちの家族は甲子園に住んでいましたが、空襲が激しくなってきたとき、父は家を守るために残り、35歳の母は5人の子どもを連れて、祖父が残した木曾山中の別荘へ疎開することになりました。混んだ汽車に乗り込み、トンネルの度に窓を閉めたり開けたり。1歳になったばかりの弟がおもらしをして、隣りのおじさんのズボン濡らして母が平あやまったり。途中、突然の空襲で汽車が止まり、電灯が消え、だれかが大声でどなって全員床に付し、息をひそめていました。艦載機が列車の上を飛んで、バリバリと屋根に機関銃をうちながら通りすぎていきました。さいわい空襲はそれきりでしたが、一度止まった汽車はいつになっても動きません。長い、長い旅でした。

中央線の上松(あげまつ)という駅について、そこから山中の別荘まで歩かなければなりません。母は赤ん坊の弟を背負い、姉二人と兄と、まだ5歳にならない私と、お手伝いのおじさん一人は、土の山道を歩きました。行っても行っても行き着きません。私が道に落ちている馬糞を見つけては、

「ばかばうんち」と言ってしゃがみ込むので、母は苦労しました。

山の中は空襲もなく、静かでしたが、食料がなく、母が近くの農家に行き、家から持ち出した物を食物に換えてもらい、何とか5人の子どもたちの糊口をつないだのでした。

終戦の日、近くの労働キャンプで働かされていた中国人の捕虜が解放されました。日本人への復讐を恐れ、とくに11歳と9歳の娘たちが襲われるのを恐れた母は、二人を屋根裏部屋に隠して潜んでいました。ある日、解放された捕虜たちが家の回りに



きて、中をうかがっています。一人が扉を叩きました。母は意を決して扉を開けたところ、その人は私たち小さい子どもを見て、何も悪いことはせず、ただ取れかけたボタンの修理を頼みました。母がそれを付けてあげると、小さな缶づめを二つ、お礼に置いていきました。それは、私たちには久しぶりのご馳走でした。

秋になって、私たちは焼け野原になった甲子園にもどってきました。父の病院は全焼しましたが、自宅だけは残っていました。神さまに守られた日々でした。

今年も私たちはザビエル上陸記念碑の前で、平和への祈りをささげます。戦争の犠牲になった方々をはじめ、亡くなった親族や友人たちを追悼するとともに、今なお世界のあちこちで戦争や暴力に苦しんでいる多くの人々のために祈りたいと思います。神の国と平和が実現しますように。

百瀬 文晃 神父

*挿絵は百瀬神父

地区だより IV

後田地区

私は一日の間、十字を切ることが多いです。

「十字を切る」晴佐久昌英神父様の本を吸い込まれるように、読みました。今、思えば十字を切る祈りは、一番短い祈りですが、私にとってイエス様が、いつも一緒にいてくださる心強さから引き付けられたのでしょうか。

車を運転しながら、車窓から見る光景は一瞬ですが、目に入った“あの方”に平安が与えられますように。元気な学童らに、気をつけて行ってらっしゃい。と、十字を切っています。

以前“あなたを守ってあげる、祈っているよ”と重荷を負っていた私に、そう声かけしてくださり、とても嬉しかったです。今、私も祈っています。“あなたのために”。

神さまは求めているものに、どんな救いの手を差しのべてくださるのでしよう。十字の祈りがもたらす救いに感謝します。



岸下 邦子

社会教説宿泊研修会 7/1～2

この春、労働教育センター長に、中井神父様が新しく着任されて、今年是用意されたレジュメに沿うのではなく、新旧お二人のセンター長による、それぞれの所感や抱負が語られるという形で、社会教説宿泊研修が7月1、2日に、行われました。30余名の参加者は和気藹々、お話を伺いました。

1日目、中井神父さまは、個人的体験から深化して行った韓国への思いや、懸念の多い日韓関係について、誤解を乗り越える融和と勇氣について、熱く語られました。

ともすれば正義や平和について語る

時、こちらが高い目線で裁く側になってしまいがちですが、神父さまは無花果の木の上のザアカイを引用され、悪人の中の後ろめたさや隠れた罪の意識を、イエス様こそ誰よりも深く見抜き招いているというお話をされたのが印象的でした。そして赦しを乞うことに、真に向き合うことが、深く険しいということも。

2日目、林神父さまは、ご自分の周辺の出来事のなかの神の働きを、例によって歩きまわられながらお話しされました。

ユーモラスですが、核にあるのは、苦しむ人・困窮している人の痛みを、まず身近に引き寄せること、誰でもないイエス様の苦しみとして悲しみ、それについてなし得ることを、外に出て実践しようとしておられることではないでしょうか。

「キリスト者は、その活動によって話さなければならない」と言ったのは、冷戦下の平和について考察したトーマス・マートンですが、つい内的な満足に終わってしまいがちな私には、キリストと社会への楔を打たれたような気がします。

稲垣 優美子

POEM

ひとりの朝食・・・

朝 目が覚めて、
自由に動く身体だったとしたら、
とりあえず、手足を動かしてみる
その大丈夫なことが
わかったところで
起き上がる。
着替えをして、トイレをすませ、
洗面もすませて、
薄くお化粧をしてみる
朝ご飯はお湯を沸かして
淹れたてのコーヒーの香りと、
バターのきいたクロワッサン
あこがれの一日のはじまり。

Fujimoto, Yuki

天使ファミリーの集い7/22(土)

天使幼稚園行事 夕涼み会
細江教会「焼きそば」係 集合



酷暑の午後2時。テッパンも熱く！
勝負どき！！

そこで、大住信徒代表以下4名と真浦秀樹先生、2人のシスターたちの心熱き人びとの出番がやってきました。暑さ増し増し、顔真っ赤でも、冗談を言いながら、笑いながらの楽しい焼きそば作りでした。指導は名人級の峯さん。ヘラのさばきもプロ並みの腕前で「さすが～」の連発でした。



*名人級の峯さん登場。(上)
外野の厳しい声に負けず、優しい指導者の下、苦戦している近藤さん。
頑張っ！(下)



見落とせないのは裏方の奉仕者。前日に材料買い出し人、当日午前中から仕込みの準備を6名で、食材出しの人も加わって、熱い暑いにぎやかな一日を過ごしました。皆さま、ありがとうございました！お疲れさまでした。

来年は、できるかな??高齢化している信徒。「できる限り幼稚園の手助けをしたいなあ～」と、大量の汗と爽やかな疲れと、あとに残るじわじわとした温かさを感じる一日でした。

近藤 克美



*夕方からは園庭で、盆踊り。
百瀬神父さまも大活躍の一日でした。
お疲れさま！



*7/4~7/7七夕飾り。
園児たちの願い事は何か？



教会学校お泊り会 7/29～30

～わたしたちといっしょに

お泊りください～

子どもたちに、イエスさまの誕生から、受難・復活を通して『神さまの愛』を伝え、呼びかける。

会場の労働教育センターの一日目は、自己紹介ゲーム、4グループに分かれて旗作りの共同作業、輪くぐりと風船ゲームで、より深い仲間作りを行った。

その後、「子どものためのイエス・キリストの物語」の映画鑑賞。美味しいカレーライスの夕食後、細江教会の広場で、花火を楽しみ、輪になり今日一日の活動を通して、振り返りを子どもたちに呼びかけました。隣の友だちと仲良くできましたか？神さまに感謝できましたか？

二日目のオリエンテーリングは、昨日の映画をもとに、日和山公園の中でクイズとゲーム、すいか割りを楽しみました。

◇子どもたちは細江5名、長府18名で、リーダー・お手伝い28名（その内2名のベトナム若者と4名の青年）参加◇

＊少し個性豊かな子どもたちに囲まれて、ミサ司式の中井神父さま。



＊輪くぐりと風船運びゲームの場面。ギャー！と、にぎやかな声が響きわたる。



＊花火の後、カップソーソクの前に輪を作り、一日を振り返って、自分の気持ちを神さまにお話する。



＊グループの旗を、折り紙やマジックとシールを使って色とりどりに、製作中。

